

## 今日のトピック 堅調に推移する原油価格（2018年6月） 需要拡大に対応してOPECは減産縮小へ

### ポイント1 OPECが減産縮小へ 減産遵守率を引き下げる計画

- 石油輸出国機構（OPEC）は、2018年6月22日にウィーンで開催した総会で、原油の増産を目指す方針を採択しました。
- OPEC加盟国による協調減産の遵守率は5月に152%まで高まりましたが、これを7月1日からは100%に引き下げるというものです。
- 翌23日に開催されたOPECと、非OPEC主要産油国の閣僚会合でも、OPEC総会での合意に従うことが決定されました。

### ポイント2 増産が必要となる見通し 日量63万バレル程度の増産へ

- OPEC月報の最新号によれば、5月のOPEC原油生産量は日量3,187万バレルです。生産枠の上限が同3,250万バレルですので、減産遵守率を100%に引き下げるためには、単純計算で同63万バレルの増産が目指されることになります。

### 今後の展開 原油価格は現状程度の水準で高止まりする見通し

- 世界の原油需給は引き締まってきました。世界的な景気拡大により需要が拡大しているうえ、OPECおよび非OPEC主要産油国による協調減産の効果により、供給増加の勢いが鈍ってきたためです。
- 需給の改善を支えに、北米の代表的な原油価格であるWTI価格は、2018年2月初旬の1バレル当たり59ドル台を当面の底に緩やかな上昇基調にあります。米国の対イラン経済制裁発動に伴い供給が一段と細るとの観測が浮上してきたこともあり、原油価格は、同70ドル前後で推移しています。

### 【世界の原油需給見通し】

	2016年	2017年	2018年
<b>世界需要</b>	<b>95.5</b>	<b>97.2</b>	<b>98.9</b>
<b>供給</b>	<b>95.8</b>	<b>96.5</b>	<b>98.9</b>
非OPEC	63.2	64.1	66.1
OPEC	32.6	32.4	32.8
<b>需給バランス</b>	<b>0.2</b>	<b>▲0.7</b>	<b>0.0</b>

(注1) 需給バランス=供給-需要。▲は需要超過。

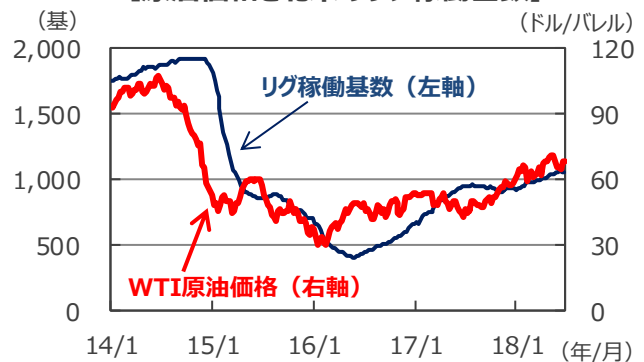
(注2) 単位は百万バレル（日量）。

(注3) 2017年は実績見込み、2018年はOPECによる予想。但し、2018年のOPEC生産量は、全体の需給が一致するとの仮定のもとでの弊社算出値。

(注4) 四捨五入の関係で、OPEC、非OPEC供給量の合計は必ずしも全体の供給量と一致しません。

(出所) 「OPEC月報」のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

### 【原油価格と北米のリグ稼働基数】



(注) データは原油価格が2014年1月3日～2018年6月25日、リグ稼働基数が2014年1月3日～2018年6月22日。ともに週次データ。  
(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

- 今後、原油価格は、仮にイランからの供給減等による上振れがあったとしても、(1)OPEC諸国に増産余力が残っている、(2)原油価格の上昇につれ、米国のシェールオイル生産も徐々に増加すると予想される、等から判断すると、やがて同60～70ドルの領域に回帰すると考えられます。

ここもチェック! 2018年6月 7日 吉川レポート（2018年6月）米金利上昇と新興国への資金フロー  
2018年5月16日 70ドル台に乗せた原油価格（2018年5月）

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。